

だい かいさつぼろしじりつしえんきょうぎかい きろく  
第26回札幌市自立支援協議会 記録

1 日時

へいせい ねん がつ ひ もく じ ぶん じ ぶん  
平成28年6月30日(木) 18時30分から 20時35分まで

2 場所

さつぼろしやくしよほんちようしや かいかいぎしつ  
札幌市役所本庁舎12階会議室

3 出席者

- あずまや ようへい あさひやまびよういん いりようそうだんしつ かちよう  
東谷 洋平(旭山病院 医療相談室 課長)
- かとう のりこ しゃふく にれ かい そうごうしせつちよう あつべつくちいきぶかい  
加藤 法子((社福) 榎の会 総合施設長、厚別区地域部会)
- きたがわ さとこ しゃふく むぎ こかい そうごうしせつちよう こ ぶかい  
北川 聡子((社福) 麦の子会 総合施設長、子ども部会)
- くりむし ひろあき ゆう たくま とりしまりやくじぎょうぶちよう きよたくちいきぶかい  
栗虫 宏明((有)拓真ワークス 取締役事業部長、清田区地域部会)
- こたに せいこ とくひ さつぼろ りじちよう ひがしくちいきぶかい  
小谷 晴子((特非)札幌アシストセンターマザー理事長、東区地域部会)
- さとう ともひろ しゃふく さつぼろししゃかいふくしきょうぎかい ちいきしえんぶ じりつしえんかちよう ふくよしいん  
佐藤 朋紘((社福)札幌市社会福祉協議会 地域支援部 自立支援課長、福吉委員  
だいいり  
代理・オブザーバー)
- しげいずみ としまさ とくひ しゅうぎよう せいかつおうえん ちよう  
重泉 敏聖((特非)きなはれ 就業・生活応援プラザ とねっと センター長、  
しゅうろうしえんすいしんぶかい  
就労支援推進部会)
- すぎた まこと しゃふく けいじんかい そうだんしつ かんりしや そうだんしえんぶかい  
杉田 誠((社福)溪仁会 相談室こころ ていね 管理者、相談支援部会)
- つまくら ゆかり とくひ しょう しゃしゅうろうしえん かい あかり や かんりしや ちゅうおうくちいき  
妻倉 ゆかり((特非)障がい者就労支援の会 あかり家 管理者、中央区地域  
ぶかい  
部会)
- なかむら なおと しゃふく さつぼろ かい しょうがいしやしえんしせつだい いえ かんりしや  
中村 直人((社福)札幌あさひ会 障害者支援施設第2よろこびの家 管理者、  
とよひらくちいきぶかい  
豊平区地域部会)
- ながい じゅんこ ほくせいがかえんだいがく しゃかいふくしがくぶ じゅんきょうじゅ  
永井 順子(北星学園大学 社会福祉学部 准教授)
- はしもと やすひろ ふく あいけいえん ほくあいかん しゅにん ていねくちいきぶかい  
橋本 泰宏((福)愛敬園 北愛館 主任、手稲区地域部会)
- まきの じゅんこ しょう しゃ だいひよう しょう どうじしやこうし  
牧野 准子(障がい者によるまちづくりサポーター代表(障がい当事者講師の  
かい だいひよう  
会 すぷりんぐ 代表))
- むらい ともお しゃふく せいじょうがくえん きょたくかいごしえんじぎょうしよ ていきよう  
村井 友生((社福)聖静学園 居宅介護支援事業所 フルネス サービス提供  
せきにしや みなみくちいきぶかい  
責任者、南区地域部会)

- 和田 文明 (合同会社Forest サポートセンターれら 所長、北区地域部会)
- 山本 彩 (札幌市自閉症・発達障害支援センター 地域支援マネジャー)
- 斎藤 規和 ((株) シムス 代表取締役、渡邊委員代理)
- 田中 耕平 ((社福) HOP、黒田委員代理・オブザーバー)
- 戸田 健一 (障がい者相談支援センター夢民 地域づくりコーディネーター、オブザーバー)
- 森 祥子 (前札幌市自立支援協議会委員、オブザーバー)

#### 4 欠席委員

- 黒田 澄雄 ((特非) ゆいまーる 理事長、西区地域部会)
- 福吉 綾子 (札幌市障がい者あんしん相談 専任相談員)
- 渡邊 貢 ((特非) 自立生活支援センターさっぽろ 事務局、白石区地域部会)

#### 5 議事概要 別紙のとおり

#### 6 傍聴者 18名

## < 議事概要 >

### ● 協議事項

#### 1 組織体制の見直し

##### ○ 永井会長

3回にわたり運営会議で議論してきた。

##### ○ 札幌市（小野寺職員）

3月の全体会での提案を受けて見直した。まちの課題整理プロジェクトチームを運営会議に戻すことにしている。併せて各プロジェクトチームを部会と横並びの位置づけにし、連動して動くように運営会議で進捗管理を行っていくこととしている。さらに、情報共有の場として専門部会連絡会の設置、運営評価部会の廃止、さっぽろ障がい者プランの策定については自立支援協議会の役割として引き続き担っていくこと、年間活動報告書で重点項目を示すことを盛り込んでいる。

##### ○ 加藤委員

プロジェクトチームの下のところ、「必要な時は部会化もあり得る」ということについて、どこがどのように判断するのか。そのプロセスはどうなるのか。

##### ○ 札幌市（小野寺職員）

これまでは、まちの課題整理プロジェクトでプロジェクトとするかどうかの判断をしてきた。今後は運営会議の中で判断して、全体会で提案することになる。部会の設置について、要綱上は全体会に提案して承認されるとされている。直近では、子ども部会を24年度に設置した。

##### ○ 永井会長

プロジェクトについて、有期が基本であり、継続した検討が必要な場合、部会化ということになると思われる。決定権は全体会にある。

##### ○ 杉田委員

部会化の判断基準を明確化した方が良いのではないかと。部会化すると部会が増え過ぎて収拾がつかなくなる可能性がある一方で、今あるどのプロジェクトも継続の必要性があるように思うので、有期では終わらない。「移動」の課題もある。住み分けたほうが良い。判断基準について、今日は結論が出なくても考えていく必要が

ある。

- 札幌市（小野寺職員）  
要綱の第7条に部会の規定がある。必要性の判断基準は、すぐに結論は出なくても、運営会議で今後並行して検討していければと思う。

- 永井会長  
プロジェクトは有期であるということは共有されたと思うし、設置の条件について引き続き検討していければと思う。ご意見がなければ、今後はこの組織図で進めたいがよろしいか。

<異議なく承認される。>

## 2 各プロジェクトの設置について

- 永井会長  
引き続き各プロジェクトの提案をいただいて、この全体会で承認いただきたい。経過は記載されているとおりなので、説明は5分程度でお願いしたい。

### (1) ヘルパーの技術向上に関するプロジェクトチーム

- 小谷副会長  
今までの経緯は平成27年度全体会の報告のとおり。東区障害者自立支援ネットワークで年一回程度研修の場を行っている。今後は人材確保も含めてプロジェクトが必要になると思われる。

- 牧野委員  
障がい児のところにヘルパーが入ることができないというのは具体的にはどういうことか。

- 小谷副会長  
発達障がいのある子が、公園でのサービス提供時に、他の子を叩いてしまい、大事になったという事例があった。対処が難しい。

- 永井会長  
東区地域部会での具体的な実績もあることから、今後協力的に取り進めていただくということでしょうか。

<異議なく承認される。>

### (2) 教育・福祉・医療の連携に関するプロジェクトチーム

○ 北川委員

教育・医療・福祉の課題は、札幌市だけではなく全国的な課題でもあるが、札幌市での取組を進めたい。

○ 佐藤委員

町内会のボランティア活動について、具体的な事例をお教えいただきたい。

○ 札幌市（小野寺職員）

町内会のボランティアの活用が必要ではという意見があった。特別養護老人ホームの送迎の車が空のときに何か活用できないかという検討をしたことがあった。

○ 永井会長

こちらも実績を残してきているものなので、新たな協力者も含め、継続して活動ということでよろしいか。

<異議なく承認される。>

(3) 住まいに関するプロジェクトチーム

○ 妻倉委員

ガイドブックと勉強会までは中央区地域部会で取り組み、その後全市での取り組みへという提案をしたい。全市へバトンタッチした後、既に北区地域部会からのプロジェクトへの参加希望がある。また、精神障がいの住居に関する領域の協会からも参加希望があり、今後一緒に取り組んでいきたいと考えている。

○ 和田委員

中央区だけの課題でなく、全国的な課題。北区としても協力したい。ガイドブックを楽しみにしている。

○ 永井会長

ガイドブックは全体的な共有で、取組が広がることもある。

○ 東谷委員

中央区の地域部会でも関わらせてもらっている。ガイドブック作成と合わせて、不動産業界へのアクションや連携もあったと思う。具体的に何かあれば。

○ 妻倉委員

もともとは宅建協会でも分かりやすいガイドブックはあったが、障がい者向けに分かりやすい版をつくるということについて、案を丁寧に宅建協会でも時間をかけて見ていただいた。今後も積極的にご支援いただけるのではと思っている。

○ 永井会長

ぜひご協力をいただきたい。

○ 重泉委員

北区地域部会が手を上げて一緒にやるというのは、なるほどと思う。精神科病院の入院の地域移行にも関わるといのは、精神の地域移行のプロジェクトとも関係して、一緒にやるということか。

○ 妻倉委員

札幌援協のことである。

○ 重泉委員

精神障がい者地域生活移行推進との横の連携も必要ではないか。

○ 妻倉委員

頂いたご意見を取り入れたいと思う。住むところがあっても、地域で住むということは、迷惑をかけないということである。

○ 永井会長

プロジェクト間で重なり合うところは、横の連携では、ぜひ有効に活用を。メンバーが重なることもあると思う。よろしいか。

<異議なく承認される。>

(4) 重複障がいに関するプロジェクトチーム

○ 札幌市（小野寺職員）

研修は秋ごろ行いたい。ヘルパー人材の確保という問題は、ヘルパーの技術向上のところと同じである。

○ 北川委員

子どもの課題が結構ある。平成30年の法改正で、訪問型の児童発達支援が始まる。医療的ケアを必要とする子どもがNICUから在宅に移るときのことを、子ども部会でもこの課題には取り組んでいきたい。いい形で連携していきたい。

○ 永井会長

このプロジェクトでも他のプロジェクトとの重なりがあるところで協力を。

○ 重泉委員

部会化はなぜしたいのか、事務局に聞きたい。

○ 札幌市（小野寺職員）

部会並みの活動をしているのではという話がされているという意味である。判断基準があるわけではない。

○ 加藤委員

医療的ケアの必要な子どもと重心でニーズは似ているが、病気で病院からということと、大人になって介護の支援の多さでということの、タッチが違う。例えば、発達に心配なお子さんには、健診からさっぽろにつながるが、病院からの退院のケアが少ない。子ども部会と連携となるとしても、医療との連携がないといけないので、このことを補足できるところがあるといいと思う。子ども部会が議論すべきことかもしれない。

○ 札幌市（小野寺職員）

今参加している医療機関だけで足りるのかということもあるし、NICUのある医療機関すべてに入ってもらいたいということもある。密接に医療機関と繋がっていく必要がある。訪問看護ステーションへのアンケートで、回答は多かったが、協議会全体でも医療との連携が難しいと感じている。どうしても福祉側の話になってしまふ。訪問看護ステーションの協議会から役員を出してもらってもよい。

○ 小谷副会長

ヘルパーの技術のことをやっているが、ヘルパーの事業所へのアンケートをしたときには、回収率も受け入れ態勢も低かった。地域で生活していけるようになりたいと思う。

○ 重泉委員

作成担当者が大久保さんで、事務局が小野寺さんになっている。行政がプロジェクトに入れるのか。

○ 札幌市（小野寺職員）

これまでは委員がいなかったのが、小谷さんに委員になってもらった。資料には書いていないが、行政の別の係の重心の担当者が入っている。今回は、事務局で作成した。自立支援協議会の事務局は、基幹相談支援センターと障がい福祉課である。

○ 和田委員

話が変わるが、ヘルパーと過ごす時間が長くなることから、ヘルパーの技術向上プロジェクトにも関わる。小谷さんが両方に参加することで、横の連携にもなる。他の人も巻き込んで参加してもらおうといったことも考えられる。

○ 小谷副会長

これからは協議会の委員として関わっていきたい。

○ 山本委員

構成員にいる相談支援事業所からの派遣を検討するのは、相談支援部会から派遣するのか。委員として参加というのものもあるが、部会からの派遣だと、部会に報告されて下りていくことになるので波及効果が違う。

○ 杉田委員

相談支援部会でも検討したが、個人的には部会化でなく、別の事業に投げたほうが良いのではと思っている。稲生会でガイドブックプロジェクトができようとしていて、そこに相談支援部会から派遣しようとしている。そのプロジェクトは、重心の小児に偏っているので、部会化するよりも協議会の委員になってもらう方が合理的である。同じことを、別のところでやるのもどうかと思う。相談支援部会では、一昨日話したが、その時点では全体会の承認をいただいていないので、派遣ということまで議論にならなかった。

○ 加藤委員

稲生会の拠点事業は、医療的ケアを必要とする子どもの短期入所の立場で声がかかった。この事業は北海道の事業であるが、札幌市に特化したものではないので、市のことをやってもいいのか。札幌市と北海道の協議も必要では。

○ 杉田委員

稲生会と道での協議では、道の事業だが、市に特化できないことを確認しているが、一方で他の市町村で取り組める状況は難しく、札幌市くらいしか社会資源がないので、札幌市を中心という確認がされていると聞いている。相談支援部会として協力してほしいと言われている。同じことを別の事業でやるのは無駄なので、今後運営会議で検討していければと思う。

○ 永井会長

制度的な整合性を取るようにしてほしい。より効率化と効果が望めるように、運営会議で検討と整理をさせていただきたい。

<異議なく承認される。>

(5) 精神障がい者地域生活移行推進プロジェクトチーム

○ 森オブザーバー

委員を退任した立場ではあるが、これまで関わってきた経過があり、説明させていただきたい。精神障がいの領域における地域移行の支援について、課題として提出されたこと等をきっかけとして、札幌市精神障がい者地域生活移行推進プロジェクトが立ち上がった。一方で、平成18年から札幌市地域生活移行支援事業が行われているが、こちらはピアサポーターの活用がポイントになっており、本プロジェクトとは別のものとなっている。

2月に1回の割合でプロジェクトが行われているが、他の障がいにも取り組む必要がある場合は、地域移行部会を新設し、その部会内に障がい別の作業チームが必要とも考える。

○ 永井会長

こちらも3月から始まっているが、協議会プロジェクトとしての担当委員については、森氏から一旦私が引継ぎ、森氏の後任委員に引き継いでいきたい。自立支援協議会として進めていきたいという趣旨である。今後、他障がいについても考えていくということである。

○ 北川委員

今後、考えていくだけでなく、ヒアリングするなどして、検討していく必要があるのではないか。今年度中に、他の障がいの状況を把握して、次年度以降に反映してはどうか。

○ 永井会長

喫緊の課題として運営会議で継続して検討していきたい。

<異議なく承認される。>

(6) 研修（人材育成）プロジェクトチーム

○ 重泉委員

ヘルパーの技術向上プロジェクトからもぜひご参加いただきたい。

○ 山本委員

はるにれの里が、強度行動障がい支援者研修の委託を受けた関係で、道の人材育成部会に今年度から加わっている。まだ道との関連で先は見えないが、これまで道の連携の経緯や協議の状況があれば教えてほしい。せっかくの機会なので、道の協議会で、札幌市のこういった人材育成やヘルパーに関する取組の状況をお伝えしても良いものか。

○ 札幌市（小野寺職員）

道との役割分担は特にはない。市町村との連携はあまりないと思う。道の委員で地域割りはしている様子。

○ 戸田オブザーバー

道の協議会の組織は、市町村と連携してとあるが、北海道が広すぎてうまくできあがっていないのが実情。大都市特例が無くなって、法定研修については道の事業になっている。

道の人材育成部会で、地域ごとに研修をやりなさいということにもなっているが、札幌市だけで応募が200人、他圏域では100人に至らない。札幌の事業者は多く、規模が大きいのだが、道としてどうしていくのかは示されていない。

暮らしの問題については、地域づくり委員会に報告していただくという状況。札幌市からや牧野委員も加わっている。

○ 永井会長

私は市の立場ではなく、北星学園大学の教員の立場で、道の協議会に出ている。札幌市の協議会の委員として何かを伝えるとはならない。今一度、道の協議会との位置付けや関係を確認する必要が出てくると思う。

○ 重泉委員

後半の答えとして、山本委員が研修チームの一員として道の協議会に行っている。ただかを、全体で議論しないとしない。永井委員は会長となっているので、北星学園大学だけでとはならない。札幌市の協議会の代表として行っていただきたい。

○ 永井会長

気持ちはそうだが、札幌市の協議会委員の前に、先に道の協議会の委員になっている。私が先に札幌市の協議会の委員として行くとなると、他の市町村の協議会委員もとなるだろう。既成事実としては間違いない。

○ 北川委員

別々の協議会と考えていいのか。研修の対象には札幌市が入っているのは、どう考えたらいいのか。

○ 山本委員

ワン・オールは入っているのか。大久保さんは入っているのか。

○ 札幌市（小野寺職員）

じんざいいくせいぶかい かか しょうち  
人材育成部会に関わっているのは承知している。

○ 杉田委員

はい まちが たちば わ  
入っているのは間違いない。どういう立場か分からない。

○ 永井会長

どう きょうぎかい きょうぎ こじんてき おこな  
道の協議会との協議は、個人的なルートとして行っているのか。

○ 札幌市（小野寺職員）

ほっかいどう かんけいせい せいり いちど ば もう  
北海道との関係性は整理したい。どこかで一度、場を設けてもいいのではないか。

○ 加藤委員

さっぽろ かだい どう かだい ちが おも せいり ひつよう おも たが  
札幌の課題と道の課題は違ってくると思うので、その整理は必要と思う。お互い  
の い に入れられるところは一緒にやっても良いと思うが、基本的に課題は別。札幌市  
の だいひょう はい ちが  
の代表として入るのは違うのではないか。

○ 札幌市（小野寺職員）

まちプロでも、市のレベルだけでなく、道や国のレベルの課題という考え方はあ  
ったので、課題の整理としてはそういう仕組みや考え方ができたらいいと思う。の  
りかかった船なので、道に行つてこようと思う。

○ 北川委員

どう ちてきしょう ふくしきょうかい はつたつしえんぶかい ぶかいちょう さっぽろ  
道の知的障がい福祉協会の発達支援部会の部会長をしている。札幌でこういう  
ことをしているから、道でも圏域ごとにやりましょうよということをやった。これ  
と、じんざいいくせいぶかい かんけい  
と、人材育成部会と関係ないが、こういうことも入れ込んでいただきたい。

○ 戸田オブザーバー

さっぽろ  
札幌であるかどうかというのはあるが、今の道の協議会の構成員は、道民である  
かどうかということで選んでいる。その時に、地域ごとに取り組んでいることと、取  
り組んでいないことがある。だから、じょうほうこうかん  
情報交換をやつていこうということ。道の  
きょうぎかい もともとほうていけんしゅう けんどう かんりせきにしやけんしゅう そうだんしえん  
協議会は、元々法定研修の検討を行つていて、サービス管理責任者研修や相談支援  
じゅうじしやけんしゅう  
従事者研修をどうするかということもあるし、今回は、きょうどうこうどうしょう しえんしや  
強度行動障がい支援者  
けんしゅう はい  
研修も入った。

どう けんしゅう たんとう ちが たんとうしやかん きょうゆう ふじゅうぶん じょうほうこうかん  
道は、研修ごとに担当者が違つて、担当者間の共有が不十分で、情報交換がさ  
れてこなかったという認識で、じんざいいくせいぶかい いしかりかんない しちょうそん ゆ き  
人材育成部会となった。石狩管内は、市町村村を行き来  
してサービスを使っている。札幌でしている良い話し合いは、道にも混ぜ込んでい  
ただいて、ぜんどう せんだう りよう とき たか じょうきょう  
全道どのまちでもサービス利用した時にレベルが高いという状況にし

ていきたい。私も協議会に参加して、他の市町村の状況もお伝えしているし、札幌の状況を他市町村にお伝えすることもある。

○ 北川委員

人材育成部会は共通の研修のことということが分かった。

○ 戸田オブザーバー

研修の取組がばらばらということがあり、行動障がいの国研修に、以前は事務方が行っていたことがあって、それでは地域の底上げにならないので、どうやって底上げをするかを整理しながら考え始めている。

○ 重泉委員

誰かが委員をすると、情報がそこで止まってしまう。だけど、札幌のことが話し合われている。そのことが参加しないと分からない。議事録に載っているというが、なかなか読むものではない。だから、報告を各区地域部会でやって、情報共有がしっかり下ろされていく場があればいいと思う。仕組みはどうしたら良いかわからないが。

○ 永井会長

情報提供していないということは反省している。沢山の意見をいただいたことにお礼申し上げたい。道の研修との棲み分けや相乗りは大事ということとし、研修プロジェクトについては提案のとおりでよろしいか。

<異議なく承認される。>

3 委員構成及び選任について

○ 永井会長

次に委員構成及び選任について、現在の委員の任期は今年の10月までになっている。後任や現在空席となっている教育分野の委員等について、事務局から説明をお願いしたい。

○ 札幌市（小野寺職員）

今年の10月16日までが皆様の任期で、再任は妨げないとされている。部長は変更なければ、特に変わらない。それ以外の方について、後任の考え方をどうするかと、教育の分野の空席についてご意見をいただきたい。

○ 北川委員

子ども部会には教育委員会から2名と、他に学校の先生にも入っていただいている。全体会でもどなたかお願いできる方がいたら、構成員になっていただけたらと思う。

○ 永井会長

森氏の後任は東谷委員ということと、教育について今後改めて運営会議で人選を進めていきたいが、よろしいか。

<異議なく承認される。>

● 報告事項

1 各部会・まちづくりサポーターからの情報提供

○ 北川委員

放課後等デイサービスの支援力向上セミナーを、3回シリーズで明日も行っている。ソーシャルワークの原則をこれまでやってきて、社会的結束が大事という話である。明日は面接法。なかなか充実した内容になったので、もう一回くらいやっても思っている。

○ 重泉委員

就労支援員研修を昨年度レベル1を行ったので、今年は、8月5日にレベル2を行う。レベル1を受けないとレベル2を受けられないことにしている。退職して受けられない方もいる。

○ 牧野委員

障がい者によるまちづくり提言サポーターより報告をさせていただく。5月27日の委員会で、交通・移動への意見を取りまとめて、事業者に提出して、回答をいただく。その後、暮らしについて取組をしていく。当事者の声を伝える機会がないので、情報提供したい。知的障がいという理由だけで住むところがなかったりする。今日も支援者の方が多いので、今後も皆さまに意見を伝えていきたい。

○ 永井会長

有意義なことで、各プロジェクトに参考にしたい。期待している。

● その他

○ すぎたいいん  
杉田委員

きょう そしきず しょうにん  
今日の組織図が承認されたということで、  
こんご す いがい  
今後、住まい以外のプロジェクトの  
せいへん  
メンバーをいつまでにどう再編していくのか  
かくにん  
確認をしたい。

○ ながいかいちょう  
永井会長

ちょうふくしょう  
重複障がいについて、  
とうせいかい かんけい けんとう  
稲生会との関係を検討しないとならない。  
ぐたいてき  
具体的なメン  
こうせい  
バー構成についてもさらに検討をしていかなければならない。  
けんとう  
プロジェクトは進行  
しているので、  
そうき けんとう ひつよう  
早期に検討が必要。  
はな あ  
ここでいつまでを話し合うというよりは、  
ほりゅう  
保留と  
らいげつ うんえいかいぎ あん だ  
して、来月の運営会議で案を出していただく  
ということではどうか。

○ こたにふくかいちょう  
小谷副会長

こうせいいん き  
ヘルパーも構成員が決まっていない。  
じかい うんえいかいぎ き  
次回の運営会議で決まってくると  
りかい  
理解して  
いた。

○ ながいかいちょう  
永井会長

じかい じ じかい うんえいかいぎ じんせん  
次回と次々回までの運営会議において、  
ば しょうにん  
人選ということでこの場の承認を  
いただき  
たい。

い ぎ しょうにん  
<異議なく承認される。>